

自治体の課題、現状

01

現状と課題

京都市立中学校では、平成4年から令和6年の約30年間で、**生徒数は4割減、運動部活動が2.5割減**となっている。こうした結果、少人数のために実戦的な活動ができなくなったりするなど、課題が生じている。

02

議論の内容

課題を踏まえ、有識者、保護者等からなる検討会議を立ち上げ、議論にあたっては、「望ましい将来像」がどのようなものであるから議論し、**平日休日を問わず検討したことが、大きな特徴である。**

03

具体的取組

- ◆まち中にスポーツ・文化芸術があふれ、全ての人に「居場所」と「出番」がある、子どもを真ん中にしたウェルビーイングなまちの実現を目指すとともに、幅広い世代が夢中になって学び合い教え合うコミュニティである「**京都学藝衆構想（別紙成果報告書参照）**」を推進している。
- ◆本構想推進のための重要施策の1つとして部活動地域展開を位置づけ、生徒が将来に渡って多様な活動の中から、志向に応じて選択できる環境を目指して、令和10年度より部活動の教育的意義を継承する「**京都版地域クラブ（仮称）**」を創設したうえで、各校で「**放課後活動**」を実施する予定。

地域クラブ活動等の概要

中学校数	72校	全生徒数	26,187人
域内の部活動数	777部	実施した地域クラブ数	39クラブ
全体の指導者数	111人	全体の運営スタッフ数	130人
主な運営団体	総合型地域スポーツクラブ、大学、民間事業者		
主な種目	バスケットボール、バドミントン、ダブルダッチ 等		
平均的な活動回数	4回/月	年間平均参加生徒実数	3年：11人 2年：10人 1年：14人
参加会費	原則なし。一部徴収	主な活動場所	学校、市スポーツ協会運営施設

取組の概要や成果



令和7年6月に誕生した
SPORTS BASE NISHIKYOGOKU

◆複数校合同部活動の実施

本市が設置を目指す「京都版地域クラブ（仮称）」をイメージし、複数校合同部活動を実施する中で、生徒同士が刺激し合い、活動が活発化した一方、移動に係る負担があるなど、様々な成果と課題が浮き彫りとなった。

◆アーバンスポーツの実施

- 既存の部活動種目に囚われることなく、生徒の多様なニーズに応じて、活動環境を整備することができた。
- また、市スポーツ協会が運営する、アーバンスポーツに特化した施設（左写真参照）を活用することで、子どもたちにとって、より良い環境で活動の充実化を図ることができた。

運営体制図

京都市部活動地域展開 体制図

